

柏市第六次総合計画（案） 抜粋

令和6年10月22日（火）実施の
柏市総合計画審議会（第8回）会議資料より
（会議録として柏市ホームページに掲載）

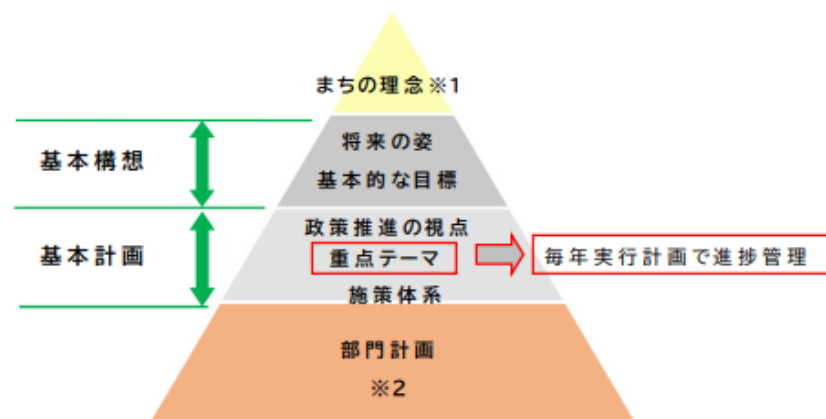
※全体の計画のうち、文化芸術部分に
かかわる部分のみの抜粋であることにご留意ください。

はじめに

(2) 計画の構成

第六次総合計画は、基本構想と基本計画による2層構造とし、基本構想では主に本市が目指す将来の姿及びその実現のために達成すべき基本的な目標を示し、基本計画では基本構想を踏まえ、主に施策の方向性を体系的に示します。

また、基本計画には、本市が取り組む内容を網羅的に記載するとともに、基本的な目標を達成するために特に寄与すると考えられるテーマについて、重点的に取り組む方向性を示し、将来の姿の実現を目指します。



※1まちの理念：市の普遍的な価値観を表すブランドスローガンとして、「つづくを、つなぐ」を掲げています。

※2部門計画：法令などによって策定が義務付けられ、または策定努力が求められる計画や、分野別の行政課題に対応するための計画

3 計画の期間

第六次総合計画の計画期間は、本市において人口減少への転換点を迎える時期を踏まえ、基本構想を2025年度（令和7年度）からの10年間としていますが、基本計画については、今日の社会経済情勢の変化や、時代の変化に伴って新たに生じる課題等に柔軟かつ臨機応変に対応することを想定し、前期と後期の各5年に分けています。

計画期間の前半では、基本的な目標を達成するために特に寄与すると考えられるテーマ（＝「重点テーマ」）について具体的に取り組む、後半では、前半の5年間での取り組みや新たに生じた課題等を踏まえ、どのような「重点テーマ」を設定すべきか、あらためて検討します。

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
基本構想 (期間 10 年)										
基本計画 (期間 5 年)										

基本構想

第2章 基本構想

1 基本構想とは

柏市が、将来を見据えたまちづくりの目標を定め、その実現に向けて、総合的かつ計画的に進める市政運営の基本となるものです。

ここに掲げる、柏のまちが「こうありたい」という目指すまちの『将来の姿』と、将来の姿を実現するために達成すべき『基本的な目標』を合わせて、基本構想と呼びます。

2 将来の姿

柏に関わる一人ひとりが想いを実現できるまち
～多様な価値や人々がつながり、新たな価値の創造に挑戦～

柏という場所が、想いを実現するきっかけをつかむことができる、誰かの新たなチャレンジを応援し、自らも挑戦し続けるまちでありたい。

そして、社会共通の課題の解決を目指すことで、柏が、日本を、世界をリードしていくまちでありたい。

また、どのライフステージにある人も希望を持って過ごせる、人々が安らぎや安心を感じたり、充実感や満足感を得ながら暮らせるまちでありたい。

柏の持つ個性、柏に関わる人々をさらにつなげる、つながることで、できることが増え、これまでにない新たな価値が生まれるまちでありたい。

柏に住む市民だけでなく、柏に関わるすべての人とまちづくりを進めていきたい。

3 基本的な目標

(1) もっと、創造的なまちへ

先進的な教育・医療・商工業・みどりある都市空間などの柏の強みと、柏に関わる人々の多様性をエネルギーとして、社会の急速な変動に伴って生じる様々な課題を解決することで、新たな価値に出会えるまちを目指します。

(2) もっと、居心地のよいまちへ

子どもからお年寄りまで多様な人々がつながるコミュニティと、さまざまな居場所が生まれ、柏に住む、働く、学ぶ、憩う、遊びに来る誰もが、健やかに育ち、安心して過ごし、年齢を重ねていくことができるまちを目指します。

(3) もっと、地域の個性が輝くまちへ

豊かな自然が感じられる手賀沼をはじめとする自然環境と、都心へのアクセスの良さや市内で生活が完結する利便性がバランスよく共存する柏で、まちの発展の中で築かれてきた文化や歴史を引き継ぎ、さらに磨きをかけるまちを目指します。

施策体系



施策

施策 | 生涯学習・文化

【目指す状態】

市民一人ひとりが生涯を通じて学び、地域の中で生き生きと暮らすことができるとともに、柏の風土に育まれた歴史や文化を通じて、市内外から魅力を感じてもらえるまちを目指します。

○施策の現状と課題－1

- 人生100年時代において、リカレント教育をはじめ、あらゆる世代が学び続け、いくつになっても新たなチャレンジができる環境が求められています。
- 市民が生涯学習に取り組むにあたり、必要な情報が必要な時に入手できるよう、適切な環境整備が必要です。

○施策の方向性－1 誰もが学べる環境づくりを推進する

いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができるよう、あらゆる世代の社会参加を促し、障害の有無、言語の違い、時間・経済的制約等にかかわらず参加できる、多様な学びと参加しやすい環境を整備します。

的確かつ効果的な情報提供ができるよう、生涯学習情報を一元的に提供するとともに、様々なツールを活用した学習機会等を拡充し、効果的な学びを支援します。

○施策の現状と課題－2

- 市全体の人口は増加傾向を維持していますが、一部地域では人口減少や高齢化が進み、地域の担い手不足につながっています。学んだ成果を地域で活かせる活動につなげることで、地域の担い手として、生きがい・やりがいを感じることも大切です。
- 地域課題が多様化・複雑化しており、市民や団体、行政機関それぞれが対応するだけでなく、連携して解決に取り組むことが求められています。
- 従来型の地域コミュニティでは地域の文化遺産を保全することが難しくなっており、地域総がかりで、地域の文化遺産を保存・活用していく仕組みが求められています。

- **地域の歴史文化を正しく知ることは、地域への愛着を醸成する第一歩です。歴史文化を構成する文化遺産を適切に保全することや、歴史文化に触れる機会の創出が求められています。**

○施策の方向性－2 地域を学び、参加する仕組みづくりを推進する

学びを通じたつながりによって、地域交流や連帯感を醸成し、地域課題の解決やコミュニティの活性化につなげていきます。

地域について知る・学ぶ機会の提供や、学んだ成果を地域に伝えることによって、地域に対する誇りや愛着を育むとともに、さらなる学びや地域活動のきっかけとし、学びの循環を生んでいきます。

地域の歴史への関心を醸成していくため、学校での郷土学習に積極的に協力していくとともに、企画展や講座においても参加者の交流を促し、次世代の歴史・文化財を支える人材や理解者の増加を図っていきます。

○施策の現状と課題－3

- 令和元年度市民意識調査によれば、「本市の芸術文化が盛んである」と回答した市民は3人に1人いるものの、より気軽に芸術文化に触れられる機会が求められています。
- 本市の美術品を活用した、アートに触れる機会の創出や交流の場が求められています。
- 本市は「音楽の街かしわ」として認知されてきましたが、さらに認知度を高めていく必要があります。また今後は学校単位の活躍に留まらず、より幅広い団体と連携を図り、まちの活性化につなげることも重要です。

○施策の方向性－3 文化・芸術の振興を図る

柏の強みとなっている吹奏楽を中心としながら、柏の音楽を育て、市内外にアピールできるよう「音楽の街かしわ」を推進します。

誰もが芸術文化に触れることができるよう、街中の身近な場で楽しむことができる機会を創出し、芸術イベントや文化活動の情報を発信し、自らが住むまちに愛着が持てる環境を整備します。

また、芸術文化を支える人材の育成や、文化芸術活動の普及のための人材育成・支援などを進めます。